

# 第六十八回県川柳大会選考結果

## 特別選「青」

### ◎人 位

青空を耕し夢を植え付ける

島田 駱舟 氏 選

蓬 田 む さ し

【評】「青空を耕す」「夢を植え付ける」は書いて

しまえば簡単だが、なかなか発想できない。二つ

がマッチして組み合わせとしても面白い。

### ◎佳 作 (20句)

青空に圧倒されている平和

鶴 田 松 山 芳 生

青い森で五感調律しています

弘 前 齊 藤 焔

群青になるまで浴びている木霊

黒 石 岩 崎 雪 洲

牡丹菊紅葉揃って昼の月

深 浦 古 川 博 子

ポケットに青いまんまの紙つぶて

弘 前 齋 藤 紀

りんごガブリ痛かったのだ青春

五 所 川 原 成 田 我 楽

お見事な修正でした風の海

今 別 木 村 花 江

アイシャドー顔に貌つけ黄昏る

青 森 前 田 厚 兵

秋空にパレットを置くフェルメール

む つ 高 橋 星 湖

青空を掴んだ亡父の肩車

黒 石 石 澤 は る 子

### ◎天 位

信号の青に本音を聞いてみる

青 森 三 浦 敬 光

【評】青信号でも本当に進んでいいのかと問いか

けている。そこが川柳家らしい。自分や周りに納

得しながら進むという謙虚な、真摯(しんし)な

気持ちが伝わってくる。

### ◎秀 逸 (5句)

教会へ青ねぎ一本持つて行く

青 森 三 上 玉 夫

褒め殺しされても澄んだままの海

弘 前 千 島 鉄 男

泣ききってびりりと剥がす曇り空

弘 前 内 山 孤 遊

青い手で裁いてしまうちぎれ雲

青 森 渡 辺 敏 子

再稼働しそうな空が青すぎる

青 森 熊 谷 冬 鼓

### ◎地 位

緑青を吹いて銀河の隅にいる

青 森 ま き こ

【評】緑青は銅のさび。さびてだめになっても銀河

の隅に生きている。謙虚な感じがする。なんとか

頑張ってる生きているというメッセージを感じた。

特別選「青」

故郷の青い空気を吸いに行く

青森 長谷川ひとし

青信号そこから先に刺がある

鶴田 工藤まさひろ

朝霧に口笛吹くと青になる

青森 福田 文音

黄昏になって気がつく青い鳥

八戸 田中 弘子

青空にあははと笑い少し泣く

南部 八木田幸子

店卸しすれば青春ラプソディ

青森 斉藤 綺羅

青い吐息これは恋かも知れぬ 酒

青森 片谷あやめ

まっさらな海に集団自衛権

青森 滋野 さち

パンナイフ青の記憶を湿らせて

青森 菊池 京

秋刀魚の背青いつぶやき滴らす

青森 吉見 恵子

宿題 「ストレス」

笹田かなえ 氏 選

ささがきごぼうの先っぽだけを見ているよ

弘前 千島 鉄男

僕が僕の眼鏡ケースに入らない

東北 井上 健蔵

満月を叩き落としてから眠る

蓬田 むさし

ストレスは無いのか深海魚のあくび

十和田 佐々木銀湖

風評被害だろうか良妻賢母

黒石 北山まみどり

はい。そうよ。それも後半(こうはん) 生

きるすべ

青森 小林 まり

◎天 位  
お隣りにトランペットが越してきた

今別 木村 花江

◎佳 作(20句)

おにやんま方角なんて知らないわ

山の子が眠りにつけぬ波の音

深浦 野呂 吞舟

青森 吉田 州花

◎地 位  
みじん切り塩もみ どうだ参ったか

弘前 船水 葉

うつぶんは吐いてはいてといわし雲

黒石 佐藤 古拙

銀行のファスナーあけていいですか

「たら、れば」のればに手足がひっかかる

一呼吸早く頷くカウンセラー

むつ 高橋 樟

青森 赤平くみこ

◎人 位  
ゼブラゾーンぐにやり曲がつて秋に入る

青森 渡辺 敏子

私似の子と居て秋の雨の部屋

蓬田 桜田富士江

十和田湖へ不定愁訴を脱ぎに行く

ストレスが消えたらわたしが臨終

いもうとは塗り絵の横に咲きたがる

八戸 横澤あや子

南部 八木田幸子

花薄欠け月なんか観たくない

◎秀 逸(5句)  
サザエさんストレス消化酵素A

黒石 岩崎真里子

切れそうなゴムと見上げる秋の天

弘前 斎藤あまね

赤と言えば必ず黒という上司

フリル外してモスクのドアを開ける熊

弘前 須藤しんのすけ

ストレスがよいしょと座るクラス会

黒石 石澤はる子

弘前 須藤しんのすけ

青森 三橋 聖

宿題「ストレス」

あやまればマシユマロになるうろこ雲

青 森 今泉 敏雄

胃袋に居座っている草書体

青 森 熊谷 冬鼓

最後まで残ったカード重すぎる

青 森 ア ッ コ

宿題 「化ける」

野沢 省悟 氏 選

◎天 位

走狗から脱し小さな灯を愛す

むつ 高田寄生木

◎地 位

夜が明けるみんな自分に化けなさい

蓬田 むさし

◎人 位

きつね雨少女が不意にAになる

蓬田 桜田富士江

◎秀 逸 (5句)

パソコンに向かうと僕は独裁者

東北 井上 健蔵

玉葱を剥し夫婦に化けて行く

弘前 阿部 治幸

バケモノだったフクシマの原発だった

八戸 横澤あや子

あれ以来もとに戻れぬフライパン

今別 木村 花江

聖戦の魔法ほどけないままに

青森 吉田 州花

◎佳 作 (20句)

ドラえもののポケットだった水溜まり

青森 千葉かほる

羽化中とドアに貼りつけ読む春樹

青森 翔

わたくしと化学反応して欲しい

青森 斉藤 綺羅

手が触れて突然変異してしまう

黒石 石澤はる子

リセットよあつけらんを買に行くと

青森 渡辺 敏子

私に化けているもう一人の私

黒石 北山まみどり

海化ける波打際に忘れ貝

青森 滋野 さち

失敗を重ねて突如飛躍する

青森 福井 陽雪

天気晴朗 九条が軍靴を履いた

青森 神 千巖

真つ白な朝日新聞読んでいる

青森 田沢 恒坊

変身を考えている割烹着

黒石 柳田 健二

おい鬼太郎ほれ獣道ばかりじゃのお

弘前 内山 孤遊

化けっ振りに驚かぬ世になりました

佐井 渡邊 寂隆

更地になったお化け屋敷でなくなった

つがる 鳴海 賢治

眉を引く淡谷のり子がぬつと出る

弘前 斎藤あまね

介護士が来て饒舌な父になる

弘前 船水 葉

化けたのではない一皮剥けていた

鶴田 松山 芳生

狐でも狸でもない老化です

むつ 畑中 月穂

宿題 「化ける」

宿題「化ける」

化けるのが下手で貴方の妻でいる

弘 前 則田

椿

ワンカップ一個で変身するわたし

青 森 太田

久

宿題 「そわそわ」

高瀬 霜石 氏 選

クロスワードパズルを埋めてきた蟻だ

弘 前 千島 鉄男

母になる妻の鼓動と僕の鼓動

青 森 対馬 閑子

立ち泳ぎばかりしているおじいちゃん

青 森 野沢 省悟

お互いにお守り揺れて受験生

弘 前 須郷 井蛙

貧乏ゆすりしている僕の自信作

十和田 佐々木銀湖

クラス会そわそわしてるいじめっ子

つがる 高橋せい子

吉報を軽いお尻になって待つ

青 森 福井 陽雪

椎間板ヘルニアだから帰ろうよ

つがる 鳴海 賢治

べっぴんの彼女を連れてくると云う

青 森 鎌田 玲子

ごきげんようこのまま咲いていいかしら

青 森 吉田 州花

◎地 位

ハンカチは幾度も畳み直される

む つ 高橋 星湖

美容院変えて火星を見に行こう

弘 前 須藤しんのすけ

似た人がまた一人行く待ちぼうけ

青 森 前田 悠遊

貧乏神来そうで塩をはなせない

深 浦 山野茶花子

えん罪だチーズケーキは食べてない

青 森 まきこ

◎人 位

キミの足音かな O b l L a i D i O b l

L a i D a

青 森 菊池 京

笑い声響く私のいない窓

青 森 熊谷 冬鼓

待ちぼうけ私の時計合っている

青 森 和田ふみお

鼻濁音あとは香水つけるだけ

八 戸 笹田かなえ

ブラウスを三度着替えて初デート

八 戸 木村 玲子

ミケとタマ私の愛に耐えなさい

青 森 小野 五郎

欲しいなあそわそわさせてくれる人

青 森 齊藤 綺羅

尿コップ持つと迷子になりそうだ

青 森 三浦 敬光

元カノがこの町内に店を出す

弘 前 長尾 青竜

ファッションはトリコロールで喜寿目指す

弘 前 齋藤 紀

◎秀 逸 (5句)

宿題「そわそわ」

おとといのウソがそろそろばれそうだ

蓬田 むさし

チャンスです肩の触れ合う距離にいる

弘前 則田 椿

デイ・サービスのバスに恋人乗って来る

弘前 阿部 治幸



宿題 「美しい」

工藤 青夏 氏 選

児を抱いた構図になっていく樹氷

弘前 千島 鉄男

放課後が輝いていた星だった

青森 野沢 省悟

結い上げた二十のははの黒髪よ

弘前 奈良岡時枝

花柄が似合うだろうかなあ野良着

蓬田 坂本 勝子

居酒屋で聞いた美談を持ち帰る

弘前 福士 慕情

塩ゆでの落花生明日(あす)もしかして

五所川原 成田 我楽

ごろんと柘榴一善をまた積みました

弘前 内山 孤遊

シェードから故郷の村が滲み出る

弘前 長尾 青竜

どう見ても白雪姫にかなわない

むつ 高橋 星湖

募金箱家族で入れたハ長調

弘前 須郷 井蛙

今日はオフ流線型は崩さない

青森 渡辺 敏子

ヴィーナス誕生 生まれたままが素晴らしい

青森 田沢 恒坊

傷心に溶け込んでくる夕茜

黒石 柳田 健二

泣いてる子いないか夕陽見てごらん

南部 八木田幸子

◎天 位

潮満ちて子を生す母の容(かたち)して

青森 神 千巖

◎佳 作(20句)

ばあちゃんの皺には誰も勝てません

黒石 岩崎 雪洲

故里の夕陽まつ赤に出迎える

深浦 山野茶花子

忘れない母逝った日の大落暉(らつき)

青森 山本 弘志

師を語る遠むらさきの揚羽蝶

黒石 岩崎眞里子

湧く水を呑み込んだ胃の透明度

深浦 古川 博子

努力賞だね夕日がハグをしてくれる

つがる 濱山 哲也

走れメロスあしあと碧くひかるまで

青森 尾形せいじ

◎地 位

蜩舞うわたしのラストページェント

青森 松尾みずき

◎人 位

立ち入りの出来ぬ里にも花は咲く

八戸 田鎖 晴天

◎秀 逸(5句)

夕焼けを好んで食べる地平線

弘前 吉川ひとし

モザイクの青と情死をする燕

弘前 須藤しんのすけ

宿題「美しい」

百円のイワシ備長炭で焼く

弘前

高瀬  
霜石

原色や日の丸弁当 卵焼き

青森

菊池  
京

席題A 「打つ」

◎秀 逸 (5句)

シナリオは一打逆転だったはず

弘前 稲見 則彦

手を打って穴から洩れてくる本音

五所川原 櫛引八千代

八木田幸子 氏

罪洗う稲妻ならば打たれよう

柳田 健二 氏

岩手県 野口 一滴

大太鼓ばちが炎を吐いている

青森 齊藤 綺羅

千島 鉄男 氏

舌の根に打ちこまれてる五寸釘

(三氏共同選)

蓬田 むさし

妥協しない猫させられているわたし

黒石 柳田 健二

老いの身を残して藁を打っている

弘前 千島 鉄男

たましいの嗚咽か胸を打つ霧笛

つがる 高橋せい子

八木田幸子 氏 選

にんげんのかわりに叩かれる木魚

弘前 高瀬 霜石

トントントントントントと肩を抱く

青森 山本 弘志

◎天 位

打たれても打たれても立つ影法師

青森 片谷あやめ

◎佳 作 (20句)

ドの音を打っては少年に還る

黒石 岩崎 雪洲

◎地 位

骨箱がコトリ打ち消す懺悔録

五所川原 成田 我楽

打撲痕ばかり溜まって行く月だ

弘前 斎藤あまね

黒の衝撃四十歳の両乳房

弘前 須藤しんのすけ

思春期に打ったくさびは動かない

深浦 草野 力丸

適時打はないが打率は稼いでる

弘前 長尾 青竜

◎人 位

般若面打たれ強くはないのです

青森 渡邊こあき

棺打つ度に神経太くなる

黒石 北山まみどり

ちよつとだけ野性に目覚め蚊打つ

八戸 田鎖 晴天

瀧に背をあずけ得るもの捨てるもの

青森 工藤 青夏

指鉄砲なんかで死なぬ曼珠沙華

青森 吉田 州花

席題A 「打つ」

いつまでも虹の記憶の鼓笛隊

青森 野沢 省悟

〔妥協点打たねば恋が逃げてゆく〕

深浦 野呂 吞舟

一本のえんぴつが打つ罪と罰

深浦 山野茶花子

〔屈辱の拳を抱いてひと寝する〕

むつ 高田寄生木

わたくしに返してもらおう平手打ち

八戸 笹田かなえ

◎人 位

ドの音を打っては少年に還る

鶴田 松山 芳生

◎秀 逸（5句）

思春期に打ったくさびは動かない

深浦 草野 力丸

それからの風が打ち消す罪と罰

五所川原 成田 我楽

句読点打って余生はどんぶらこ

弘前 富士 慕情

優しさを取り戻すまで打つ太鼓

青森 まきこ

斜になって明日の杭を打っている

五所川原 白川 莫

打たれても打たれても立つ影法師

青森 片谷あやめ

叱責に打算も媚もなくて母

青森 工藤 青夏

背の丈に合わせて釘を打ち直す

弘前 船水 葉

稲穂打つ亡母の小言が風に乗る

むつ 高田 和子

棺打つ度に神経太くなる

黒石 北山まみどり

こめかみに打たれた赤い句読点

蓬田 むさし

ノックしている背に闇が近くなる

むつ 高田寄生木

雨に打たれてだんだん澄んでゆくピアノ

青森 吉見 恵子

曲がり釘いっぱい人になる形

黒石 岩崎 雪洲

打たれ強く生きた昭和の土根性

青森 太田 久

屈辱の拳を抱いてひと寝する

むつ 高田寄生木

柳田 健二氏 選

◎天 位

にんげんのかわりに叩かれる木魚

弘前 高瀬 霜石

◎地 位

秋の画布から和太鼓の音がする

弘前 千島 鉄男

◎佳 作（20句）

手あましの杭が砂漠に捨ててある

五所川原 櫛引八千代

骨箱がコトリ打ち消す懺悔録

五所川原 成田 我楽

席題A「打つ」

丸腰の父の小言が胸を打つ

五所川原 白川 莫

◎地 位

指鉄砲なんかで死なぬ曼珠沙華

あと何度打たれるのだろ僕の頬

弘前 内山 孤遊

青森 吉田 州花

◎佳 作(20句)

打撲痕ばかり溜まって行く月だ

弘前 斎藤あまね

傍点を打つたところが泣きどころ

青森 斉藤 綺羅

◎人 位

宣戦布告トレモロでやって来た

瀧に背をあずけ得るもの捨てるもの

青森 工藤 青夏

青森 菊池 京

曲がり釘いっぱい人になる形

黒石 岩崎 雪洲

舌の根に打ちこまれてる五寸釘

蓬田 むさし

明日というファウルチップの貯金箱

藤崎 佐藤 雅秀

シナリオは一打逆転だったはず

弘前 稲見 則彦

◎秀 逸(5句)

句読点打って余生はどんぶらこ

木のバット本気を出してないだけ

青森 小野 五郎

蠅叩き人を空爆するように

弘前 富士 慕情

あと何度打たれるのだろ僕の頬

弘前 内山 孤遊

雨ざんざ今日という日を楽しまん

青森 野沢 省悟

ぼんと手を打ってしまったて蟻地獄

青森 翔

叱責に打算も媚もなくて母

弘前 高瀬 霜石

罪洗う稲妻ならば打たれよう

岩手県 野口 一滴

千島 鉄男氏 選

◎天 位

屈辱の拳を抱いてひと寝する

むつ 高田寄生木

ドの音を打っては少年に還る

青森 工藤 青夏

鉄を打つひたすらいのち吹き込んで

弘前 斉藤 荔

男性ホルモン低下拍手のし過ぎです

つがる 鳴海 賢治

席題A「打つ」

投げ返す言霊打ったホームラン

南部 八木田幸子

優しさを取り戻すまで打つ太鼓

青森 まきこ

ノックする破片が突き刺さらぬように

黒石 北山まみどり

独房にいじめはないラムネ玉

青森 三浦 敬光

ブログ炎上被害者さえも鞭を打つ

南部 八木田幸子

思春期に打つたくさびは動かない

深浦 草野 力丸

手あましの杭が砂漠に捨ててある

五所川原 櫛引八千代

今日までが打撃戦ですレモン噛む

青森 福田 文音

忘れたい尻尾を伸ばす除夜の鐘

青森 千葉かほる

枢までネブタ囃子を引くだろう

蓬田 坂本 勝子

席題B 「変」

◎秀 逸 (5句)

認知症ボクは詩人になりました

青 森 三浦 敬光

生煮えの説教で笑い上戸になる

青 森 神 千巖

山野茶花子 氏

こんなにも彫られたんだなあ僕の貌

弘 前 内山 孤遊

ハンガーに吊るした影を褒められる

弘 前 千島 鉄男

佐藤 古拙 氏

天の邪鬼これが私の道しるべ

青 森 佐藤 武

待ちましよう青い果実の熟れるまで

南 部 八木田幸子

高田寄生木 氏

(三氏共同選)

傭兵もバイトもビラで募集中

青 森 滋野 さち

虹色にグレーゾーンを見せしめ

弘 前 斎藤あまね

山野茶花子 氏 選

変わり目の風を感じている握手

む つ 高田寄生木

尖って笑って泣いて液状化

黒 石 岩崎 雪洲

◎天 位

父になる日から変わったへその位置

黒 石 柳田 健二

恐竜の玉子変ところで抱いて寝る

深 浦 草野 力丸

◎佳 作 (20句)

母なれば獣の肉も引きちぎる

藤 崎 佐藤 雅秀

露地に児が消えて走らぬ縄電車

五所川原 櫛引八千代

◎地 位

解凍をされて息づく冷凍魚

五所川原 白川 莫

徘徊の父は勲章持って出た

弘 前 阿部 治幸

空箱を積みあげ昭和を離せない

蓬 田 桜田富士江

◎人 位

偽善者の指から黴の匂いする

弘 前 千島 鉄男

鳩たちが消えた秒針が狂う

つがる 鳴海 賢治

定型をはみ出して立つ崖つぶち

青 森 田沢 恒坊

偽善者の指から黴の匂いする

弘 前 千島 鉄男

まっすぐに生きてアダ名は変り者

つがる 濱山 哲也

変化球受けそこなつたままピエロ

五所川原 佐藤寿見子

席題B 「変」

仮面つけて浮世の渡り変えました

深浦 野呂 吞舟

杭一本打とう流れを変えたくて

弘前 斉藤 荔

食の変みえない糸が絡み合う

青森 対馬 閑子

入室は厳禁と貼る変声期

黒石 佐藤 古拙

人間をどつぷり浴びて散るもみじ

黒石 岩崎 雪洲

◎人 位

ハンガーに吊るした影を褒められる

弘前 千島 鉄男

◎秀 逸(5句)

認知症ボクは詩人になりました

青森 三浦 敬光

子を憶う寿限無が楢円形になった

弘前 斎藤あまね

天の邪鬼これが私の道しるべ

青森 佐藤 武

待ち続けた夕陽あっけなく沈む

鶴田 松山 芳生

水の惑星から漏れている真水

青森 山本 弘志

うな重は高価ゾンビ体操はじめます

つがる 鳴海 賢治

露地に兎が消えて走らぬ縄電車

五所川原 櫛引八千代

変なこと言うから好きになったじゃない

八戸 笹田かなえ

食べ物に変わって消えた母の帯

八戸 田鎖 晴天

コスモスの臍から下を海にする

弘前 須藤しんのすけ

青菜喰うチョウチョになれるかも知れぬ

青森 滋野 さち

寿限無寿限無微妙にずれてくるテンポ

むつ 高橋 樟

杭一本打とう流れを変えたくて

弘前 斉藤 荔

関節炎がせつせつせつせつと共喰いをする

青森 神 千巖

鳩たちが消えた秒針が狂う

つがる 鳴海 賢治

年金って変温動物なんです

青森 小野 五郎

佐藤古拙氏 選

◎天 位

葦一本もう生き方は変えられぬ

弘前 斉藤 荔

◎地 位

どんぐりが村を出てゆく好奇心

五所川原 櫛引八千代

◎佳 作(20句)

羽化の音君だけの空こじ開ける

黒石 柳田 健二

秋の変くさかんむりで逢いにゆく

蓬田 むさし



真ん中を歩いて轍抜け出せぬ

黒石 北山まみどり

待ちましよう青い果実の熟れるまで

南部 八木田幸子

偽善者の指から黴の匂いする

弘前 千島 鉄男

人間をどつぷり浴びて散るもみじ

黒石 岩崎 雪洲

変わったねあなたもねって霽の中

青森 里村みつこ

大変だ今日の仮面が決まらない

青森 まきこ

千羽鶴ほどいて騙し舟を折る

五所川原 白川 莫

◎地 位

いきなりの転調ですか冬の蝶

青森 松尾みずき

◎人 位

ししとうの中に一人のテロリスト

青森 田沢 恒坊

◎秀 逸(5句)

千羽鶴ほどいて騙し舟を折る

五所川原 白川 莫

人間をどつぷり浴びて散るもみじ

黒石 岩崎 雪洲

鳩たちが消えた秒針が狂う

つがる 鳴海 賢治

待ち続けた夕陽あっけなく沈む

鶴田 松山 芳生

◎天 位

高田寄生木氏 選

◎天 位

こんなにも彫られたんだなあ僕の貌

弘前 内山 孤遊

◎佳 作(20句)

認知症ボクは詩人になりました

青森 三浦 敬光

交差点心変りのする予感

青森 鈴木 貴子

葦一本もう生き方は変えられぬ

弘前 斉藤 荔

たましいが宅配便で出て行った

青森 野沢 省悟

父になる日から変わったへその位置

黒石 柳田 健二

行列のしっぽでモンローウオークする

黒石 北山まみどり

変化球ひらがなの手で受け止める

青森 福井 陽雪

変な雲またいで秋の部屋に行く

青森 赤平くみこ

空箱を積みあげ昭和を離せない

蓬田 桜田富士江

メダカの網にかかってしまう鯨の子

蓬田 むさし

席題B「変」

コンビニと百均だけの街になる

八戸 笹田かなえ

誤作動がたびたび起きる僕の脳

青森 太田 久

善人の仮面ひるなか闊歩する

岩手県 野口 一滴

騙し絵のきつぷの良さに変わる風

弘前 吉川ひとし

変調になるたび羽が伸びてくる

青森 吉見 恵子

恋の字と信じきってる節がある

弘前 稲見 則彦

庭仕舞い杭打つたびに冬になる

青森 斉藤 綺羅

夕焼け小焼けどこかに消えた下駄の音

青森 野沢 省悟

徘徊の父は勲章持って出た

弘前 阿部 治幸

虹色にグレーゾーンを見てしまう

弘前 斎藤あまね